

はじめに

千歳科学技術大学 学長 川瀬 正明

本学は平成 10（1998）年に光科学に関わる教育研究拠点の形成を目指して光科学部・2 学科体制で開学しましたが、その後の領域拡大に鑑み、平成 20(2008)年に総合光科学部・3 学科体制に組織を変更しました。さらに平成 27(2015)年以降、情報系・サービス科学系の充実を図り、かつわかりやすい組織名とすべく理工学部・3 学科体制に改組しています。

本年度は大学機関別認証評価受審の年にあたり、前年度から全学あげて自己点検・評価に取り組んだ結果、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定されました。

このように開学以来、大学のあるべき姿について不断の議論を重ね、改組改革を行って参りましたが、将来を見据えた大学改革を推進し、地域社会における知的・文化的拠点としての中心的役割を担う大学として、これからも一層教育と研究を発展させ、さらに全学的に地域活性化に貢献していくために、公立大学法人化の検討に関する要望書を千歳市へ提出するに至っています。

本学はこれまで、多くの GP 等文部科学省の補助事業に選定され、教育力を高める取り組みを推進してきました。特に本年度は大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」参加 8 大学の代表校として最終年度の事業推進に努めました。本事業の成果として、開発した教材総数約 8,000、プレイスメントテスト、到達度テストの延べ参加人数は 89,000 人におよび、事業終了後も引き続き連携の枠組みでシステムの運用・改善等の継続を行うこととしました。

さらに本年度、「大学教育再生加速プログラム 高大接続改革推進事業 V.卒業時の質保証」に採択され、全員参加による WG 活動等、具体的な活動を開始しました。本取り組みをベースに年度末には 3 ポリシーの策定を行い、今後の本学の教育改革の中核と位置づけて実施することとしています。

また、地域貢献として、教員による公開講座、学生プロジェクトチームの理工工房による理科実験授業等のほか、道内最大規模で推進している高等学校との連携は平成 28 年度末で 56 高校と協定を締結し、活発な活動を継続しています。さらに先端的ナノテクノロジー研究設備の外部共用を進める文部科学省ナノテクノロジープラットフォームの実施機関として「分子・物質合成プラットフォーム」を構築し、企業等への技術支援を行っています。また、本学を核に産学官共同研究システムの構築を目指す特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアム（略称：PWC）と連携をとって各種研究プロジェクトを推進しています。

大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、建学精神の「人知還流」、「人格陶冶」を具現化すべく教職員一丸となって、教育、研究、地域貢献に邁進しておりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。